

**\* 国立天文台（東京天文台）が登場する小説：「波の塔」**

アーカイブ室新聞第304号に「国立天文台（東京天文台、緯度観測所）が登場する小説などの収集」（2010年3月31日）という記事を書いた。これは天文学に関する歴史的に貴重な観測装置、測定装置、写真乾板、映像記録、その他あらゆる資料の収集を進めていたところ、観山正見国立天文台長からアーカイブ室長に「国立天文台（東京天文台、緯度観測所）が登場する文学作品（小説など）を収集しろ」という話があったというので、さっそくアクションを起こし、第1弾として「土星を見るひと」椎名誠著（新潮社）があると聞き、早速入手して記事を書いたものである。続いて緯度観測所が宮沢賢治の「風の又三郎」に登場すると思いついて、さっそく買いこんで読んでみたが緯度観測所は登場しなかったという失敗談もある。今回は調べていたら、松本清張の小説「波の塔」（写真1）に東京天文台が登場するという情報を得て、これも買い込んで読んでみた。



写真1 東京天文台が登場する松本清張の「波の塔」

確かにこの小説には3か所ばかり東京天文台が登場する。主人公2人が深大寺あたりから東京天文台あたりを歩くシーンに登場するのみで、東京天文台の構内に入った描写はない。それでも確かに文面に「三鷹の天文台」という言葉が出てくる。

確かに、この小説には東京天文台が登場していた。42 ページに主人公 2 人が深大寺から国分寺崖線に沿って歩くうちに三鷹の天文台に差し掛かった描写出てくるのである。東京天文台に立ち入ったわけではなく、深い森に出くわしたというような場面である。

筆者は、なお、東京天文台が登場する文学作品を探しているが、個人で読む小説など数が知れたものである。このことをアーカイブ室新聞に書けば情報が寄せられると思い掲載したが、今のところ芳しい反応はない。

それでも、吉川玲子の「きりえ作品集」に東京天文台の風景が載っているとか、三鷹は数多くの文学者ゆかりの地だから、三鷹市立図書館編の「三鷹文学散歩」に情報があるのではないかと取り寄せてくれたり、池澤夏樹の「ハワイ紀行」に国立天文台ハワイ観測所訪問記があるなどの情報が寄せられ、その本を寄贈してくださる方もいる。

国立天文台（東京天文台・緯度観測所）が登場する文学作品はもっとあるはずだと思う。情報をお持ちの方はぜひお寄せいただきたいと思う。